





Vol.69 / 秋季号

令和2年(2020年)11月1日発行
(年3回7・11・2月発行)

 第59回従業員功勞表彰受賞者一覧

 【特別寄稿】
SDGs of Agricultural Machinery
Industry in Japan

 新型コロナウイルス感染症
「新しい生活様式」

 フジイコーポレーション株式会社
「弊社のコロナ感染症予防対策について」

ひま

日農工会報

わり



CONTENTS

第59回従業員功労表彰受賞者一覧		
	[製造部門] 7名	1
	[研究・開発部門] 6名	2
	[管理・営業部門] 15名	4
健康相談		7
【特別寄稿】SDGs of Agricultural Machinery Industry in Japan		8
	一般社団法人日本農業機械工業会 会長 木股 昌俊 (株式会社クボタ 代表取締役会長)	
日農工だより		17
新型コロナウイルス感染症「新しい生活様式」		
	「新しい生活様式」の実践例	18
	～ マスクを“着けられない”人もいます! ～	20
弊社のコロナ感染症予防対策について		21
	フジイコーポレーション株式会社 総務部 森田 理恵	

【表紙写真】

タイトル：医療従事者への感謝
JMAA 梅沢 茂之 氏

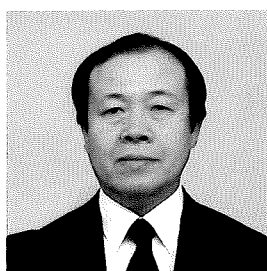
令和2年度

第59回従業員功労表彰受賞者

“合理化の促進、技術の改良開発、販売の促進等
企業発展に著しく寄与した者に贈られる”

注：役職・勤務年数は令和2年5月1日現在

[製造部門]

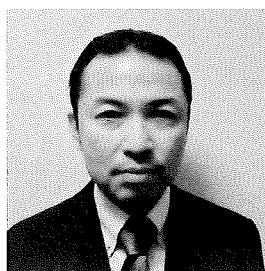


大田 浩

(株)麻場
生産本部生産部
生産課チーフ
(勤続年数 41.1年)

【功績の概要】

入社以来一貫して組立の生産現場に携わり、ラインの改善等生産効率アップに貢献。また、2002年4月から2009年10月まで7年半、フィリピンの子会社に出向し、組立のリーダーとして現地人だけの現場をまとめあげた。帰国後、生産部次長として統括。

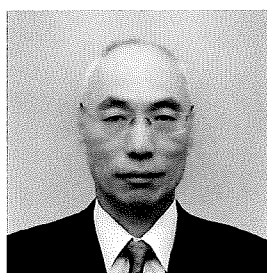


川井田 隆

(株)神崎高級工機製作所
生産部組立一課
課長
(勤続年数 34.2年)

【功績の概要】

入社以来34年間、主に農業機械に使用される油圧機器及びトランスミッションの製造に従事し、日々切磋琢磨し培った技能と豊富な経験を活かし、安全、品質、生産性向上に努めてきた。現在では職場である組立一課(油圧機器及び船用減速機の組立)の課長としての役割は基より、長年の経験で蓄積した豊富な知識と技能を部下へ伝承し、熱意を持って指導にも取り組み、後継者育成にも寄与している。

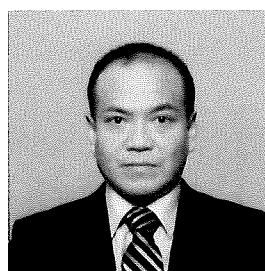


光田 典夫

(株)アテックス
購買管理部
技師
(勤続年数 41.1年)

【功績の概要】

入社以来、製造現場の第一線を歩み、購買管理部では資材調達において品質の向上、コスト面の改善など社業の発展に多大な貢献をした。現在も効率の良い資材購入や、部下育成など優れた手腕を発揮している。



西田 正行

小橋工業(株)
作業機製造部
物流塗装課 課長
(勤続年数 25.1年)

【功績の概要】

長年作業機塗装に従事し、品質向上とラインの稼働率向上に取り組んでいる。特に塗装不良の発生と時間外時間の削減が大きく進んでおり、コストダウンにもつながった。また、組立工程へ流出して発見される塗装不良も削減できており、作業機製造部門全体の品質向上に貢献した。今期より物流塗装課の課長として従来以上にリーダー

ーシップを取り関係他部門との調整を取りながら業務を進めている。部門全体の成果発揮とレベルの向上に貢献すると同時に、後進の育成にも尽力し、自己の経験と技能を継承できる現場の多能工化を推進している。



三宅達也

(株)タカキタ

製造開発本部製造部
札幌工場生産課 課長
(勤続年数 36.0年)

【功績の概要】

入社以来、製造部札幌工場に勤務し、2009年製造部札幌工場生産課課長心得、2011年製造部札幌工場生産課課長に就任し、現在に至る。札幌工場における業務効率の向上、コスト削減、品質向上に大いに貢献した。



澤口公洋

(株)タカキタ

軸受部
生産管理課 課長
(勤続年数 35.1年)

【功績の概要】

入社以来、軸受部に勤務し、2012年軸受部生産第一課課長、2019年軸受部生産管理課課長に就任し、現在に至る。軸受工場における業務効率の向上、コスト削減、品質向上に大いに貢献した。



森本敏男

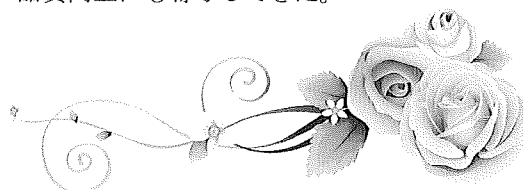
ヤンマー農機製造(株)
生産管理部
部品グループ
(勤続年数 43.1年)

【功績の概要】

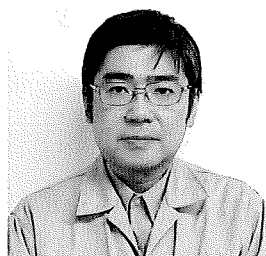
入社以来、主に資材購入部門で活躍。2002年9月資材部グループリーダーに就任し、

当社のコスト低減及び部品調達から製造の安定に貢献した。

また、部下のレベルアップに留まらず、取引先指導を行ない、品質向上にも寄与してきた。



【研究・開発部門】



森 素広

(株)IHI アグリテック
開発部 ICT 開発グループ
担当部長
(勤続年数 30.5年)

【功績の概要】

入社以来、農作業機のメカトロ開発に従事し、主力商品の自動化や遠隔操作を実現。近年はトラクタと連携した自動化、作業性向上、精密散布を可能にする製品を開発し、社業の発展に多大な貢献をした。また後継の育成、社外のプロジェクトへの積極参加等により、社内外から厚い信頼を得ている。



宮木重敏

アグリテクノ矢崎(株)
農業事業部
チーフマネジャー
(勤続年数 19.1年)

【功績の概要】

平成23年11月の農業事業部開設と同時に同事業部のチーフマネジャー(責任者)として赴任。弊社の農業事業の立ち上げから関わり、水稻、トマト、ブドウ栽培に着手、それらの栽培ノウハウ蓄積に率先垂範して取り組むなか、中山間地域の担い手として認知され、高梁市と連携して高齢化した農業従事者の廃業後の耕作の受け皿となり、耕作放棄地の抑

制に貢献する役割を担うだけでなく、新規就農者に対する教育の場となる「トマトスクール」「ピーチスクール」を主催するなど、会社貢献だけでなく、地域貢献にも積極的に関わり、会社と地域をつなぐ、なくてはならない存在となっている。



正田 博之

金子農機(株)

技術部技術グループ
グループ長(副参事)
(勤続年数 42.1年)

【功績の概要】

入社時、生産部下部ラインの検査係として配属。熱心に業務へ取り組み、電子課の係長へ抜擢される。やがて生産技術保全課課長として精勤、その功績により技術部課長として着任。それ以来制御盤のシステム開発を手掛け、回路設計の創意工夫に尽力しわが社への貢献は高い。中国をはじめとする海外事業への展開分野においても、機械設置・システム稼働時のアドバイザー等マルチな活躍を見せている。常に業務に対し、探求心を持続し入社以来40年制御盤にかける情熱はまだまだ枯れることなく、その活躍ぶりは現在進行中だ。



芹澤 訓央

静岡製機(株)

特機推進部
特機設計課 課長
(勤続年数 34.1年)

【功績の概要】

入社以来、長年にわたって共同乾燥施設の設計業務に携わっており、担い手、PRO農家が増加する時代の中で、今でも重要なポジションで活躍している。途中、技術部にも所属し、無洗米、精米機の設計に携わり、当時一時的にブームとなった無洗米市場に製品を投入することが出来た。



酒井 征朱

(株)本田技術研究所
ライフクリエーションセンター
完成機開発室
エキスパートエンジニア
(勤続年数 37.2年)

【功績の概要】

入社以来、除雪機、草刈機、運搬車の設計を担当し、開発責任者として数々のモデルを上市させ、農業機械を含めた完成機の設計者の育成も行った。また、除雪機安全協議会の代表幹事を長年務め、安全啓蒙と共に安全規格向上に努めている。近年では、インドの現地責任者として、耕耘機、ポンプ等の商品企画、開発に携わり、台数拡大を図った。



武田 広美

(株)山本製作所

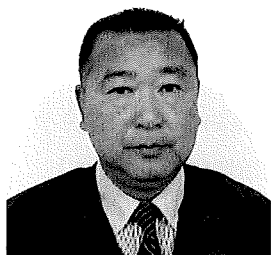
農機事業部技術部
生産設計グループ
(勤続年数 33.0年)

【功績の概要】

昭和62年入社以来、主として技術部門に在籍し、新製品の開発や品質機能向上に尽力し、特に、主力製品である施設用籾摺り機や業務用精米機関係の開発設計に携わった。また、現在は生産設計業務において、その蓄積された経験を活かし既販機の改良設計を一手に担っている。これまでの功績は、社業発展へ大きく貢献している。



[管理・営業部門]



木下 秀一

(株)IHI アグリテック
営業部西日本グループ
担当部長兼熊本営業所長
(勤続年数 30.6年)

【功績の概要】

営業担当として取引先からの信頼も厚く、業績の向上に大きく貢献した。5つの営業所を統括する西日本グループ担当部長として、地域の営業の取りまとめや、部下の育成に取り組んでおり、人望も厚い。



泉 大助

(株)アテックス
営業本部
課長
(勤続年数 34.1年)

【功績の概要】

入社以来、営業の第一線を歩み、平成9年 関東支店支店長に就任、新規店開拓や特約店の構築により社業の発展に多大な貢献をした。現在は部下の育成に優れた手腕を発揮している。



福間 健蔵

有光工業(株)
九州営業部
九州営業所所長
(勤続年数 25.1年)

【功績の概要】

平成7年4月入社、同年10月 GHC 事業部甲信営業所に配属され、平成12年10月に関東営業所係長、平成30年10月より九州営業部九州営業所所長となり現在に至る。その間、常に旺盛な行動力を持って、農業用防除機の販売・推進・新規代理店の開拓にあたり、社業発展に貢献した功績は極めて大きい。

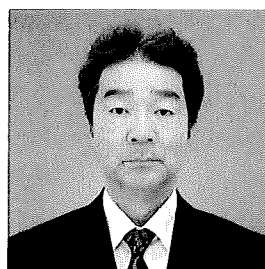


米内 龍哉

キャニコム
Project line
新商品企画開発部長
(勤続年数 33.11年)

【功績の概要】

入社以来、東北地区の営業第一線に従事し業績向上に大きく貢献した。実直な性格ときめ細やかな対応で、お客様からの信頼も厚い。昨今は、Project lineの部長として、造林業機械“愛称：山もつとジョージ”の開発、販売普及に尽力しており、日々現場でお客様のボヤキを収集し、ものづくりにつなげることで造林作業の省力化に大きく寄与している。

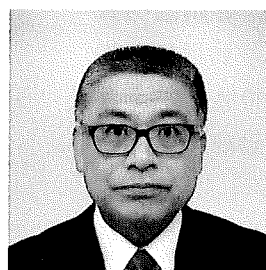


国尾 忠章

三陽機器(株)
大阪・岡山営業所
所長
(勤続年数 35.1年)

【功績の概要】

昭和60年に入社以来、営業の第一線を歩み、持ち前の明るさと行動力で農業機械・油圧機器の販売拡大に大きく貢献した。令和元年に大阪・岡山営業所の所長に就任してからは、豊富な営業経験と油圧機器の知識を活かし、更なる顧客満足の向上と後進の育成に力を注いでいる。



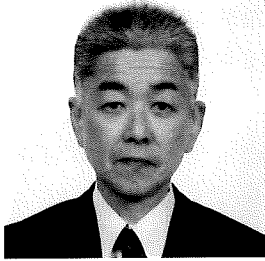
植田 仁

静岡製機(株)
農機営業部
農機企画課主幹
(勤続年数 36.1年)

【功績の概要】

入社以来、農機営業部に所属。九州、北陸の2営業所で営業職として活躍し実績を伸ばし本社へ異動。一旦は中部営業所営業職へ復帰したが、その後、会社の中核を担うサービス部門に携わり、現在は農機

企画課に勤務。
講習会や研修会対応を中心に、サービス業務に関して無くてはならない人物となっている。



田 辺 敬 一

(株)太陽
海外事業部
部長
(勤続年数 29.7 年)

【功績の概要】

入社以来約30年の長きにわたり、開発業務そして営業部門に従事。また、平成28年からはインド現地法人の統括責任者として現地に出向し、インドでの市場開拓を推進、耕うん爪の普及や基盤の拡大に多大な貢献をした。

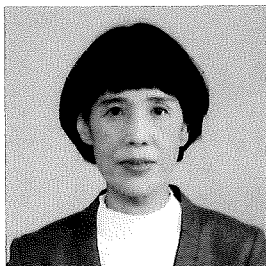


川 村 寅 彦

(株)太陽
品質保証部
品質保証部長
(勤続年数 36.1 年)

【功績の概要】

入社以来、品質管理と生産現場を担当している。製造部長、品質保証部長を歴任して、当社主力製品「耕うん爪」の品質向上を主導し、この間に「耕うん爪」の不適合率を半減させている。



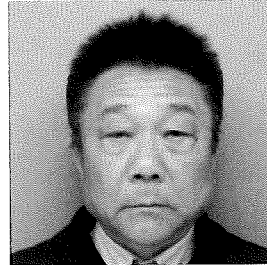
森 田 小 百 合

(株)太陽
営業本部
業務課係長
(勤続年数 38.1 年)

【功績の概要】

昭和57年入社後、営業企画部門において企画管理を担当。その後、平成16年より営業事務職として取引先の窓口業務を担当し現在に至っている。こ

の間、営業事務職のエキスパートとして着実に業務を遂行しており、社内外からの信望も厚い。また、後進育成にも努め、他の社員の模範となっている。



市 川 三 広

ハスクバーナ・ゼノア(株)
営業本部
東北支店支店長
(勤続年数 38.1 年)

【功績の概要】

1982年入社 製造部門に配属。1983年に小松製作所工業専門学校入学、サービス科で技術を学び、1985年同卒業。コマツゼノア本社サービス技術課に配属、1986年中部支店に配属となり販売店への技術指導を積極的に実施、サービス技術の向上に貢献した。1992年東北支店に営業として配属、岩手、宮城の担当として新規店開拓を推進し、東北支店の売上拡大に尽力した。2003年東京支店に配属後は長野・千葉・東京を担当し、2006年には新商品販売のトップセールスマンとなった。2018年東北支店長就任後は、新商品の普及と新たな販路拡大に意欲的にチャレンジしている。



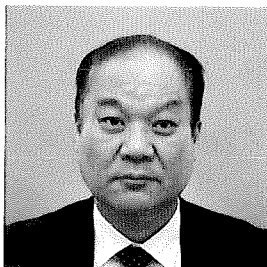
梶 川 寿 一

ハスクバーナ・ゼノア(株)
営業本部
九州支店支店長
(勤続年数 27.3 年)

【功績の概要】

1993年入社、営業部門配属となり宮崎県を担当、2002年から鹿児島県の担当となった。鹿児島営業所を11年経験した後、2004年4月から本社の販売企画にて営業経験を生かした商品・販促の企画を行い売上に貢献した。その後、2006年10月九州支店に異動、管内最大手卸店を担当し販売店と一体となり九州一円で大きく売上を伸ばした。支店内では限定商品の提案や新たな販売ルートの開拓に尽力。2011年九州支店副支店長、2018

年九州支店長に就任。支店長として販路拡大を図り、2018、2019年と九州支店の過去最高の売上を達成。九州地区の要的存在である。

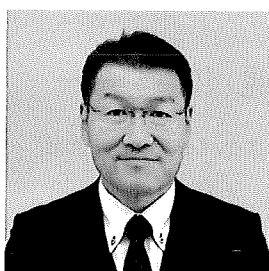


太田 良和

(株)ホンダパワープロダクツ
ジャパン
法人販売課課長
(勤続年数 34.9年)

【功績の概要】

昭和60年本田技研工業四国汎用営業所に入社、その後、和歌山県・広島県・関東の汎用営業所において農機および産業機器の営業を担当し、農業機械・産業機械の拡販に尽力。その後、市場変化をいち早く捉え、各地域のホームセンターとの取引を開始する。農業機械の取り扱い、サービス等、お客様の満足度の向上などアマチュアユーザーの開拓と育成に取り組む。特にホンダが得意とする小型農業機械の販売に大きく貢献を行った。一方で農業改良普及員の資格等を活かした農家の育成にも大きく貢献をするなど、農業発展と農業機械普及に大きく貢献をした。

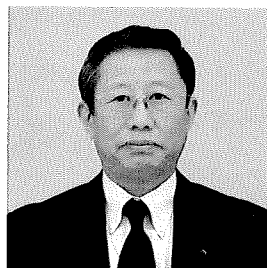


清水 信男

松山(株)
総務部副部長
兼総務課課長
(勤続年数 29.1年)

【功績の概要】

平成3年の入社より約18年間は製造部工務課にて生産管理や原価管理を担った。平成21年からは総務部総務課に配属となり、社業の発展に貢献している。特に人事関係においては採用の責任者として、時代に適した手法を積極的に導入し、次代を担う人材の確保に尽力している。また、常に社員を第一に考え、すべての人に分け隔てなく接する姿勢は、全社員からの信頼もたいへんに厚い。

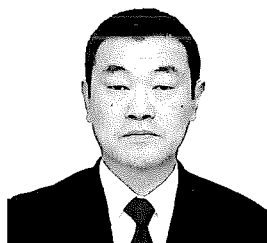


前田 洋介

(株)丸山製作所
国内営業本部
西日本支店支店長
(勤続年数 35.1年)

【功績の概要】

入社以来、一貫して営業部門に所属し、国内および海外を担当。2010年から2015年にはアメリカ合衆国に赴任し、北米、中南米の販路拡大に従事。現在は、西日本地区における販売の促進、営業網の整備、販売計画の策定に従事。当社の業績向上に大きく貢献した。



河内 進

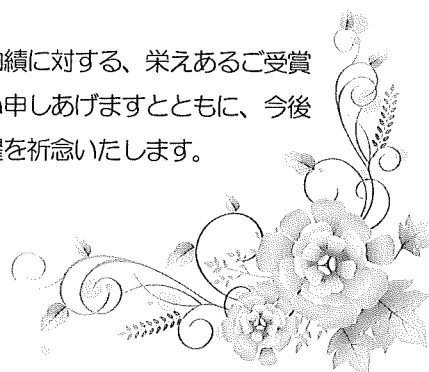
やまびこジャパン(株)
東日本支社
新潟営業所
(勤続年数 22.2年)

【功績の概要】

入社以来22年間、新潟県の佐渡地域において営業職として活躍。その誠実な姿勢からお客様との堅実な信頼関係を築き、同地域における、やまびこ製品の拡販及びマーケットシェアのアップに大きく寄与した。

また、2008年から新潟営業所の所長代理としてチームを牽引。サブリーダーとしての役割を果たすとともに、豊富な営業経験を基に、若手営業社員の育成にも大きく貢献している。

長年のご功績に対する、栄えあるご受賞
心からお祝い申し上げますとともに、今後
一層のご活躍を祈念いたします。



Q: 突然、バナナでアレルギーが出た。
口腔アレルギー症候群といわれたが…

〈相談者／32歳 女性〉

スギやブタクサの花粉アレルギーがありますが、先日バナナで唇が腫れ、びっくりしました。口腔アレルギー症候群かもといわれましたが、いつも食べていたバナナで突然アレルギーが起こるのは不思議です。口腔アレルギー症候群とはどのような病気ですか？今後、ほかの食品でもおこるのでしょうか？

A: 花粉と共通の抗原をもつ食品を食べること
きた、食物アレルギー反応と思われる

今回の症状は原因から考えて、バナナによる食物アレルギーの一種「口腔アレルギー症候群」と思われます。食物アレルギーとは、食事をしたときにからだを食べ物（に含まれるたんぱく質）を異物として認識し、自分のからだを防御するために過剰な反応をおこすことです。一説には全人口の1～2%（乳児に限定すると約10%）の人々が、何らかの食物アレルギーをもっているものと推測されています。

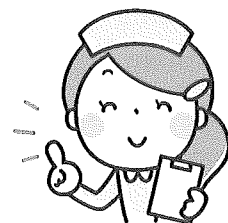
特定の食品を食べることで発症しますが、口腔アレルギー症候群の場合は、相談者のような花粉症のある人に発症しやすいのが特徴です。食物抗原（アレルギーの原因となる物質）等は、交差性抗原性といって、似たような抗原をもつ食品に対してアレルギー反応をおこしやすいことがあり、花粉と似た抗原を含んだ食品（おもに果物や野菜を食べることで、アレルギー反応が誘発されること

があるのです。原因となる食品として、バナナのほかりんごや桃、スイカなどがいわれています。また、スギやヒノキの花粉はトマトと関連があるとの報告もあります。

アレルギー反応が出ると、のどがかゆい、唇が腫れるなどの口の中の症状だけでなく、じんま疹のような症状になったり、ひどいものではアナフィラキシーショックという命に危険が及ぶものなどさまざまな症状を生じますから、注意が必要です。

食物アレルギーの発生メカニズムはいまだ不明な点が多く、現在確実な根治療法は見つかっていません。対症的に抗アレルギー薬やステロイド剤、エピネフリン自己注射など使用することがあります。そのため確実に有効な手段としては、原因となる食品を避けることがすすめられます。したがって現段階では、バナナは食べないことが好ましいのですが、本当にバナナが原因かどうかを調べるためにも、一度アレルギー専門医に相談することをおすすめします。口腔アレルギー症候群の反応も個人差や症状によって異なりますから、医師と相談して避けるべき食品や行動などを決めていくとよいでしょう。

回答者：東京大学附属病院アレルギー・リウマチ内科
関谷 剛氏

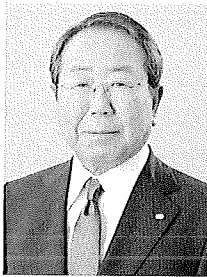


【特別寄稿】

(株)農機産業調査研究所が出版している国際的農業機械専門誌 AMA の創刊 50 周年特別企画号「SDGs と世界の農業機械化」が発行されましたが、同研究所からの要請を受けて日農工会長が寄稿しましたので、原文のまま本誌に再掲します。

AMA : Agricultural Mechanization in Asia, Africa and Latin America

SDGs of Agricultural Machinery Industry in Japan



Masatoshi Kimata

President of Japan Agricultural Machinery Manufacturers Association

(Chairman and Representative Director of KUBOTA Corporation)

《Introduction》

First of all, I sincerely congratulate AMA on its 50th anniversary. I would like to pay tribute to Mr. Yoshisuke Kishida's great contribution, through which AMA, as an international magazine on agricultural mechanization, has continuously been published for 50 years.

“SDGs and agricultural mechanization of the world” is a very timely issue. Agricultural machinery manufacturers are keenly aware of the importance of SDGs and making efforts to associate their activities with the SDGs in accordance with their respective situations.

Regarding SDGs in agriculture and agricultural machinery sector, I will give an overview of the government's efforts at first, and then the private sector's efforts including KUBOTA Initiatives hoping that useful information is conveyed to readers.

《Government Policy》

In December 2019, the Japanese government revised “SDGs Implementation Guiding Principles”, which is a mid-to-long term national strategy for implementing the 2030 Agenda and achieving the SDGs in Japan and internationally by 2030. The principle set the following eight priority areas for efforts toward the establishment of Japan’s “SDGs Model.” (Table 1)

Table 1 Eight priority areas in the "SDGs Implementation Guiding Principles"

(People)
1 Realization of gender equality and a society where every person can play an active role
2 Achievement of good health and longevity
(Prosperity)
3 Creating growth markets, revitalization of rural areas, and promoting science & technology and innovation
4 Sustainable and resilient land use, promoting quality infrastructure
(Planet)
5 Energy conservation and renewable energy, disaster risk reduction and climate change countermeasures, sound material-cycle society
6 Conservation of biodiversity, forests, and oceans, and other environments
(Peace)
7 Achieving peaceful, safe and secure societies
(Partnership)
8 Strengthening the means and frameworks for the implementation of the SDGs

Specific measures and their budgets to promote each priority areas are visualized in the SDGs Action Plan formulated by the Promotion Headquarters. The latest version, which is “SDGs Action Plan 2020”, illustrates three main pillars, i.e., “Business and Innovation,” “Regional Revitalization,” and “Empowerment of the Next Generations and Women”, in order to accelerate the establishment of Japan’s “SDGs Model”.

Smart agriculture, which is deeply relevant to the agricultural machinery industry, is included in the first pillar, “Business and Innovation”. Stable food supply, sustainable agriculture and rural development are not implicitly shown in the pillars, but described as important components in the related priority areas.

The agricultural machinery industry fully supports such government policies on SDGs. I am convinced that experience and knowledge accumulated in the industry will continue to contribute to achieving the SDGs in Japan, as well as in the world, through solving various issues in the agricultural sector.

《Initiatives by private sectors》

Charter of Corporate Behavior by Keidanren

Keidanren (Japan Business Federation) revised its Charter of Corporate Behavior in 2017 (the original version was published in 1991), in which the principles of the responsible behavior by corporations are laid down, with the primary aim of proactively delivering on the SDGs through the realization of “Society 5.0” in 2017.

“Society 5.0”, which was advocated by the Cabinet Office in 2016, means the fifth and newest society in the history of human social development, following on from the hunter-gatherer society, agrarian society, industrial society, and information society. The creation of such a society is in line with the SDGs, as shown in the subtitle of the Charter. "For the Realization of a Sustainable Society". Member corporations are expected to fulfill their social responsibility with a strong sense of ethical values, by acting according to the following ten principles. (Table 2)

Table 2 Ten principles in the "Charter of Corporate Behavior"

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">- Sustainable economic growth and the resolution of social issues- Fair business practices- Fair disclosure of information and constructive dialogue with stakeholders- Respect for human rights- Relationships of trust with consumers and customers- Reform of work practices and enhancement of workplace environments- Engagement in environmental issues- Involvement in community and contribution to its development- Thorough crisis management- Role of top management and implementation of this Charter |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

The Charter explicitly requires member corporations to act towards the achievement of the SDGs. The role of a corporation is to realize a sustainable society on the basis of fair and free competition. Members of the agricultural machinery industry will fulfill their social responsibility in cooperation with members of the other industries.

JAMMA Activities

Japan Agricultural Machinery Manufacturers Association (JAMMA) is the nationwide organization of agricultural machinery manufacturers in Japan, founded with the aim of contributing to the sound development and progress of agricultural machinery industry as well as the growth of national economy.

The scope of JAMMA's works extends to a wide range of issues, such as the development of safety technology, matters on the environment regulation, standardizations related to agricultural machinery, export promotion, etc.

Agricultural machinery is indispensable for farmers, and contributes to increase the productivity of food production which is related to the Goal of the SDGs. In addition, I recognize that standardization, exhaust gas regulation compliance and smart agriculture are also positioned in the SDGs. JAMMA will continue to actively promote these activities.



KUBOTA Initiatives

The Kubota Group is committed to achieving SDGs in the areas of food, water, and the environment, which are indispensable for human beings. The Kubota Group continues to support the future of the earth and human society through providing its products, technologies and services. (Figure 1, Table 3, Table 4)

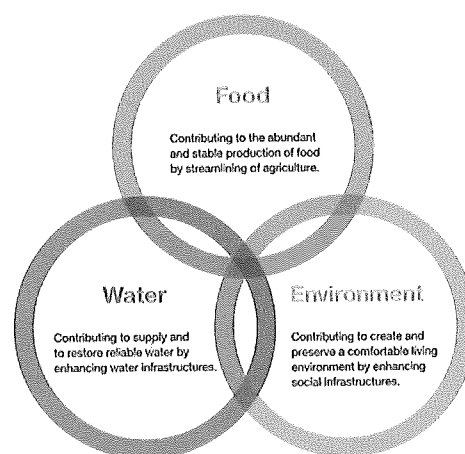








Figure 1 KUBOTA Global Loop

Table 3 Social issues to be addressed by Kubota Group

Areas	Situations	Expectations
Food	- The world production of major crops in FY2027 is expected to increase by 12.2% compared to FY2017	Based on the projection of the farm population and the crop harvest area, the crop yield growth is needed for the increase of the production. The mechanization of agriculture, including the installation of smart agriculture will be essential for enhancing the productivity.
	- The world harvest area of major crops in 2027 will be expected to be almost the same level as the average of those in 2014-2016 (700 million ha)	
	- The world population in 2027 is estimated to increase by 10.4% compared to 2017	
	- The net increase in the world population from 2017 to 2027 will occur in the urban population, and not in the rural population	
Water	In developing countries, as of 2015, - 2.1 billion people lack access to “safely managed” water - 840 million people have still not received the basic water supply - 4.5 billion people have no access to “safely managed” sanitary facilities	Development of safe water, sewage and sanitary facilities is expected.
	In Japan, the deterioration of water/sewerage pipelines and facilities, and securing enough manpower and handing down expertise and skills in the aging society are the big issues.	Efficient operation of water supply and sewerage undertakings are expected.
Environment	- The ratio of the urban population to the total world population is estimated to rise from 55% in 2017 to 60% in 2030. - The number of cities with a population of 10 million or more (megacities) will increase from 33 in 2018 to 43 in 2030.	In accordance with the progress of urbanization, further development of social infrastructure is expected.
	- The frequencies of rainstorms, flooding's, water shortages, etc., which is said to be related to the global warming seem to increase. The risks of natural disasters, such as typhoons, earthquakes and tsunamis, etc., also seem to increase.	The disaster prevention and preparation as well as the prompt restoration measures after disasters are expected.

Table 4 Contributions to SDGs by KUBOTA GROUP

	Approach to creating value (Approach to promoting SDGs)	Main related SDGs	The Kubota Group's SDGs KPI
Food	Contribute to the abundant and stable production of food by the streamlining of agriculture.	 	- Contribution to the food production through further spreading agricultural machineries
			- Promotion of smart agriculture utilizing IoT and robot technologies (KUBOTA Smart Agri System (KSAS))
Water	Contribute to the supply and restoration of reliable water by enhancing water infrastructures.	 	- Contribution to the development of sustainable water-related infrastructure, through providing products, technologies and services, related to water and sewage, as well as water treatment facilities
			- Contribution to the efficient operation of water-related facilities, through utilizing IoT technologies, as well as combining expertise on the water-related products and the expertise on water treatment technology, mapping/design technology and construction.
Environment	Contribute to creating and preserving a comfortable living environment by enhancing social infrastructures.	 	- Contribution to the development of environment friendly and sustainable urban infrastructures
			- Contribution to the development of sustainable and resilient urban infrastructures that are robust against disasters

Kubota Aims for Smart Agriculture

By promptly introducing ICT (information and communication technology) and robotic technology in agriculture, Kubota will realize smart agriculture that reduces labor and increases precision, contributing to the abundant and stable production of food.

Kubota Smart Agri System (KSAS)

KSAS is a farm management information system, consisting of two parts, i.e., “Farming support system” and “Machinery service system”. “Farming support system” collects and stores a variety of agricultural data through automated agricultural machinery with IoT device and field/remote sensing system etc. Based on the analysis of the collected data, farmers can improve farming practices and increase profitability. With “Machinery service system”, farmers can receive a timely maintenance service. KSAS enables efficient farm operations, relying not on experience and intuition, but on data.

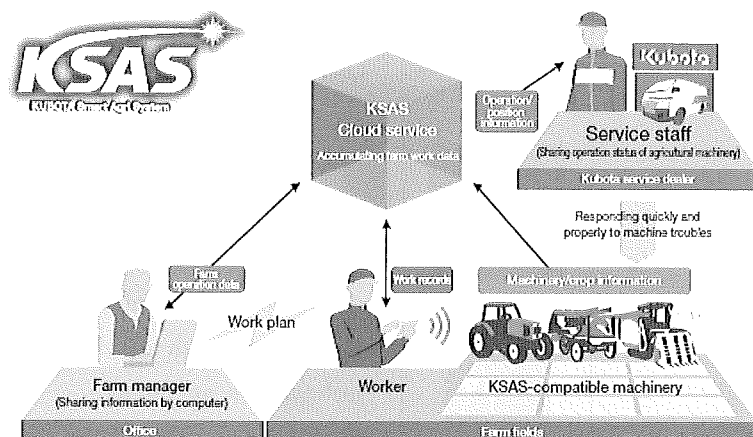


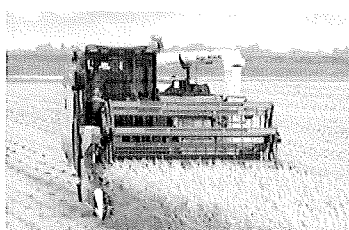
Figure 2 Kubota Smart Agri System (KSAS)

Kubota Agricultural Machinery with GPS

Using GPS (global positioning system), Kubota has developed an autonomous tractor and rice transplanter capable of performing unmanned automatic operations under manned monitoring, as well as combine harvester that carries a human operator while performing autonomous operations, and a rice transplanter able to self-steer to keep a straight line of travel.



AGRIROBO Tractor capable of performing unmanned automatic operations



AGRIROBO Combine harvester with automated driving assist function



Rice transplanter with keeping straight function

《Final Commentaries》

The private sector is being called on to exercise creativity and innovation to deliver on the Sustainable Development Goals (SDGs) for realizing a sustainable society. Understanding that the development of the private sector is founded on the realization of a sustainable society, and the private sector should fulfill its social responsibility.

According to “World Population Prospects in 2019” published by the United Nations, the global population is projected to grow to around 8.5 billion in 2030, 9.7 billion in 2050, and 10.9 billion in 2100, from 7.7 billion in 2019.

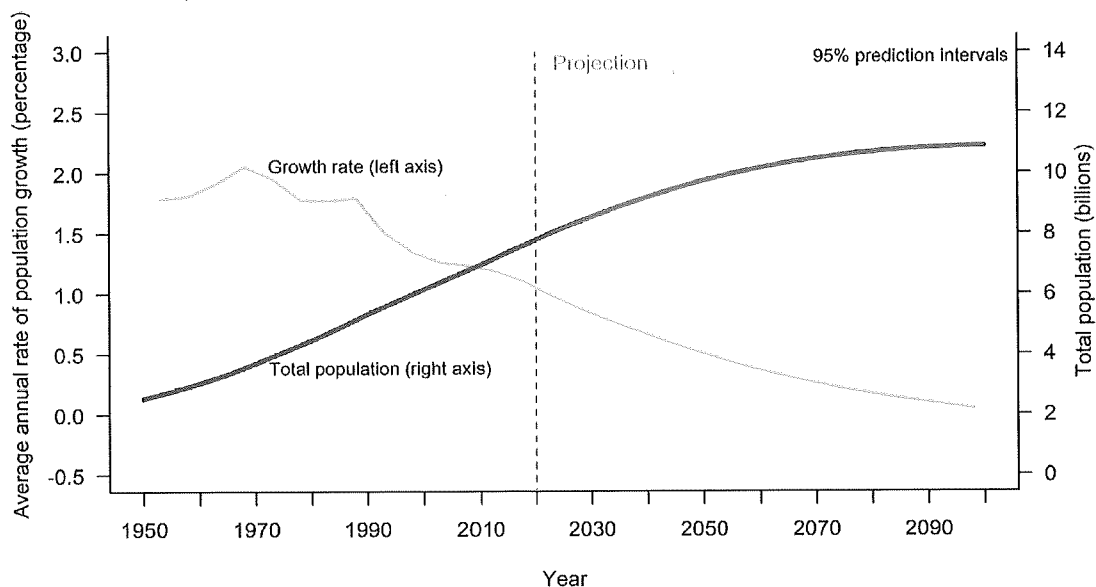


Figure 3 Population size and annual growth rate for the world:

Estimates, 1950-2020, and medium-variant projection with 95 per cent prediction intervals, 2020-2100

FAO estimates that “to meet demand, agriculture in 2050 will need to produce almost 50 percent more food, feed and biofuel than it did in 2012”. Under the constraint of farm lands, the increase in production would be achieved mainly through yield growth.

Table 5 Increase in agricultural production required to match projected demand, 2005-2050 (per cent)

	2005/07	2050	2005/07 2012	2013-2050
World				
As projected in AT2050	100	159.6	14.8	44.8

Source: FAO 2017, “The future of food and agriculture”

I believe that agricultural machinery industry must play a key role in the improvement of agricultural productivity. We should continue to move forward, recognizing that expectations to the industry are growing, and at the same time our responsibility becomes greater.

Last but not least, I would like to express my deepest appreciation to AMA for giving me this kind of opportunity. I wish AMA will continue to flourish as an international magazine of agricultural mechanization in the future.

《References》

Prime minister's office of Japan

SDGs Implementation Guiding Principles Revised Edition

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/pdf/jisshi_shishin_r011220e.pdf

SDGs action plan 2020

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/dai8/actionplan2020.pdf>

Keidanren (Japan Business Federation)

Charter of Corporate Behavior

<https://www.keidanren.or.jp/en/policy/csr/charter2017.pdf>

KUBOTA Corporation

The Kubota Group Mission, KUBOTA REPORT 2019

https://www.kubota.com/report/pdf/report2019_04.pdf

KUBOTA Group's social issues and contribution to SDGs, KUBOTA REPORT 2019

https://www.kubota.co.jp/report/pdf/report2019_09.pdf

Major Products of the Kubota Group

https://www.kubota.com/report/pdf/report2019_10.pdf

United Nations

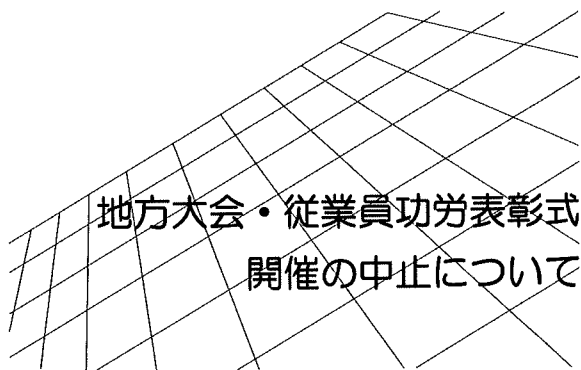
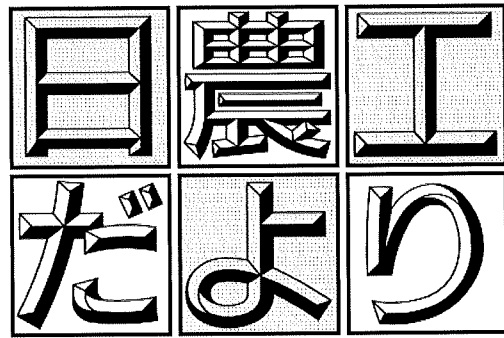
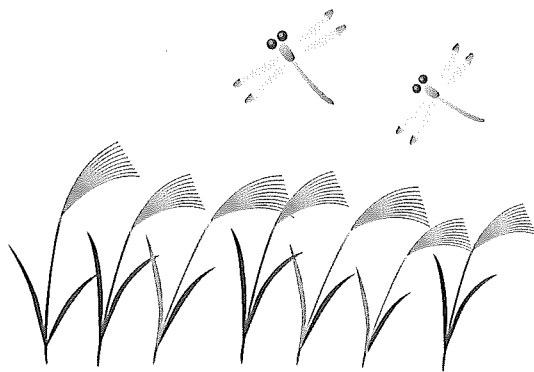
World Population Prospects 2019 Highlights

https://population.un.org/wpp/Publications/Files/WPP2019_Highlights.pdf

FAO

The future of food and agriculture

<http://www.fao.org/3/a-i6583e.pdf> P46



令和2年10月26日(月)に開催を予定しておりましたが、「令和2年度 地方大会」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とさせていただきます。

また、同時開催予定だった、「第59回従業員功労表彰式」につきましても、同様に中止とさせていただきます。

会員企業から推薦を受けた28名の受賞者の皆様につきましては、授与品の発送をもって表彰に代えさせていただきます。(受賞者を1~6ページに掲載)

◆「東京都食育フェア」開催中止のお知らせ

毎年11月に代々木公園で開催され、日農工も出展をしている「東京都食育フェア」は、新型コロナウイルス感染症による影響で、残念ながら開催中止となりました。

一刻も早く事態が収束し、安心安全にイベントが開催できるようになる日を心より願っております。

今後の主なスケジュール

◇令和3年1月8日(金) 新年賀詞交歓会
八芳園(東京都港区白金台)

※開催の可否は、11月中旬に判断する
予定です。

◇令和3年3月24日(水) 理事会
機械振興会館(東京都港区芝公園)

◇令和3年5月25日(火) 定時総会
八芳園(東京都港区白金台)

◆投稿写真を随時募集しています!

ひまわりでは「フォトギャラリー」に掲載する投稿写真を募集しています。

デジタルカメラやスマートフォン等で撮影した写真データと一緒に、①タイトル ②コメント ③名前(ご希望の方はPN)④ご連絡先を明記の上、広報委員会までメールにてご応募ください。

- ・ 季節を問わずジャンルは自由です。ただし、肖像権や著作権には十分ご注意ください。
- ・ 写真には必ずタイトルとコメントを添えて下さい。
- ・ 採用された方にはお礼の品を送らせていただきます。

【応募先】(一社)日本農業機械工業会 広報委員会
E-mail : sunflower@jfmma.or.jp

→ 詳しくは日農工のホームページをご覧ください。

<http://www.jfmma.or.jp/himawari.html>

新型コロナウイルス感染症 「新しい生活様式」

新型コロナウイルス感染症の流行で一気に広がった感染症予防対策は、毎年流行しているインフルエンザやノロウイルス等のほかの感染症にも有効な対策です。

国立感染症研究所が発表しているインフルエンザの流行データ（図1）を見ると、2019-2020 シーズンは例年に比べて感染が抑えられたことがよくわかります。

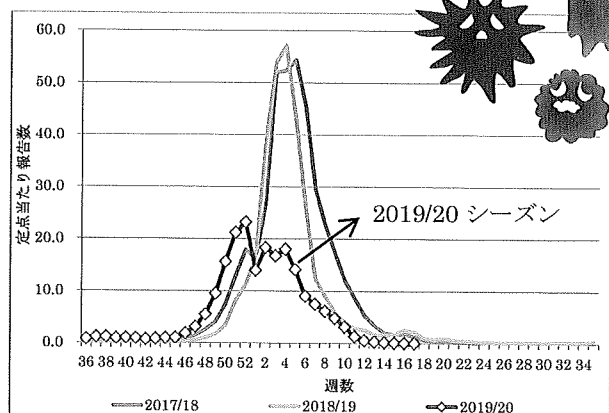


図1 過去3シーズンの定点受診者数の比較 (2017/18シーズン～2019/20シーズン)

出典：国立感染症研究所ホームページ

これからの季節は気温の変化が激しく、体調を崩しやすくなります。

感染症のリスクを避けるため、積極的に「新しい生活様式」を日々の生活に取り入れていきましょう。

実践できている項目をチェックしよう!

出典：厚生労働省「新しい生活様式」の実践例

◆ 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本 ①身体的距離の確保 ②マスクの着用 ③手洗い

- 人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける。
- 会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
- 外出時や屋内でも会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。
- 家に帰ったらまず手や顔を洗う。人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
- 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）。

※高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

◆ 移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- 地域の感染状況に注意する。

◆ 日常生活を営む上での基本的な生活様式

- まめに手洗い・手指消毒



手洗い

- 咳エチケットの徹底



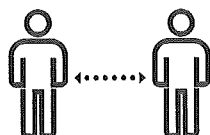
咳エチケット

- こまめに換気



換気

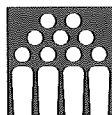
- 身体的距離の確保



- 「3密」の回避（密集、密接、密閉）



密閉回避



密集回避



密接回避

- 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行

- 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養

◆ 日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- 通販も利用
- 1人または少人数ですいた時間に
- 電子決済の利用
- 計画をたてて素早く済ます
- サンプルなど展示品への接触は控えめに
- レジに並ぶときは、前後にスペース

娯楽、スポーツ等

- 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- 筋トレやヨガは、十分に人との間隔を
- もしくは自宅で動画を活用
- ジョギングは少人数で
- すれ違うときは距離をとるマナー
- 予約制を利用してゆったりと
- 狭い部屋での長居は無用
- 歌や応援は、十分な距離かオンライン

イベント等への参加

- 接触確認アプリの活用を
- 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

公共交通機関の利用

- 会話は控えめに
- 混んでいる時間帯は避けて
- 徒歩や自転車利用も併用する

食事

- 持ち帰りや出前、デリバリーも
- 屋外空間で気持ちよく
- 大皿は避けて、料理は個々に
- 対面ではなく横並びで座ろう
- 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務
- 時差通勤でゆったりと
- オフィスはひろびろと
- 会議はオンライン
- 対面での打合せは換気とマスク



《知っておいてほしいこと》

～マスクを“着けられない”人もいます！～

前ページでご紹介した「感染症予防対策」で、ほとんどの人が外出時には必ずマスクを着けるようになりました。また、お店へ入店する際にマスクの着用が義務付けられている場合も…。世間ではマスクの着用は“マナー”となりつつあります。

そんな状況の中、『マスクを着けていなかった』ことが原因で起こったトラブルの話題をよく耳にします。なぜつけないのか？視線が気にならないのか？と初めは不思議に思っていました。が、どうやら着用できない深い理由があるようです。

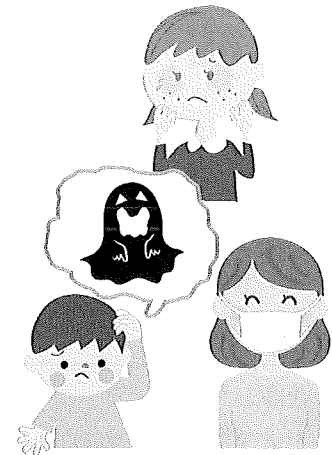
《考えられる主な理由》

① 接触(感覚)過敏

→皮膚の病気や脳の過剰反応により、顔に湿疹や腫れがでてしまう、頭痛や呼吸が困難になるなどの症状がでてしまう。

② パニックの誘発

→マスクの閉塞感、呼吸のしづらさ等で発作が起こってしまう。
→発達障害のお子さんが、マスクで覆われた顔を認識できずに怖がってしまうため、親御さんが装着できない場合もある。



■ほかの人にうつさないために
くしゃみや咳が出るときは、飛沫にウイルスを含んでいるかもしれません。次のような咳エチケットを心がけましょう。

- ・マスクを着用します。
- ・ティッシュなどで鼻と口を覆います。
- ・とっさの時は袖や上着の内側に覆います。
- ・周囲の人からなるべく離れます。

3つの咳エチケット 電車や職場、学校など人が集まるところでやろう

マスクを着用する (口・鼻を覆う) ティッシュ・ハンカチで口・鼻を覆う 袖で口・鼻を覆う 得意げずに咳やくしゃみをする 咳やくしゃみを手でおさえる

正しいマスクの着用

① 鼻と口の両方を確実に覆う ② ゴムひもを耳にかけず ③ 隙間がないよう鼻まで覆う

厚生労働省 新型コロナウイルス感染症対策本部

出典：首相官邸 HP「チラシ：咳エチケット」より抜粋

様々な理由でマスクをつけられない方がいらっしゃることも理解して、差別的な視線や言葉を投げつける前に「何か事情があるのではないかと一度考えてみましょう。最近ではこのこともメディアによって周知されつつあり、障害者マークやヘルプマークのように独自の目印をつけている方もいますので、よく確認してみてください。

マスクをしていない相手がいた場合、距離を十分に取って換気を心掛けたり、マスクをつけられない人も、3密での会話を控えて『咳エチケット』は守るなど、お互いに思いやりのある行動が取れるとよいですね。

- 【出典】
- ・新型コロナウイルス感染予防のために「新しい生活様式を実践しましょう」／厚生労働省
https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kenkou-iryousoudan.html#h2_1
 - ・「今冬のインフルエンザについて (2019/2020 シーズン)」／国立感染症研究所
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-m/590-idsc/9830-fludoko-2020.html>
 - ・新型コロナウイルス感染症に備えて「咳エチケット」／首相官邸
<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html#c5>

～フジイコーポレーション株式会社～

弊社のコロナ感染症予防対策について

総務部 森田 理恵

コロナ感染症の拡大に伴い、弊社でも予防対策を講じてきました。

弊社の予防対策は弊社独自で考えた対策もありますが、取引先様や関係会社様にお聞きして取り入れた対策も、多くあります。

現在では大小合わせて50ヶ所以上の対策を行っています。

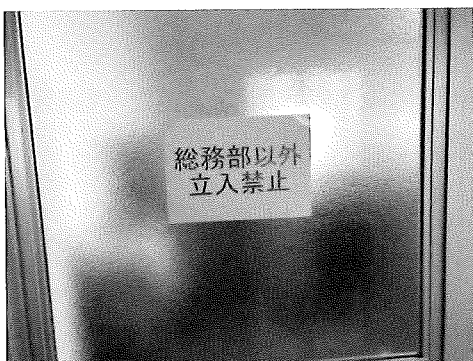
その中から、いくつかをご紹介します。



① 移動制限

機械事業製造部は機械工場のみ、事務所や他の部署へ入れない。

総務部は総務部のみ、というように部署ごとに移動制限を設けました。



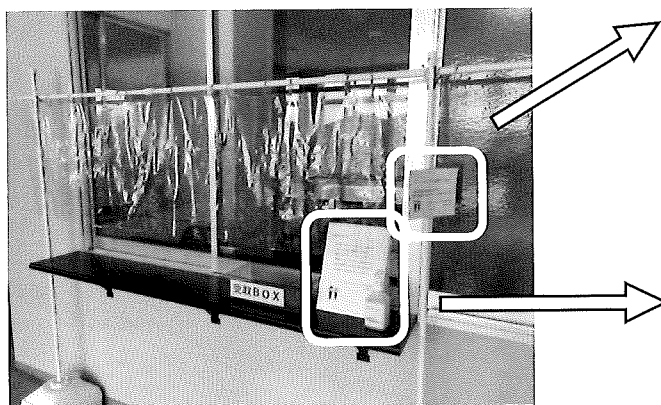
総務部入口ドアの張り紙



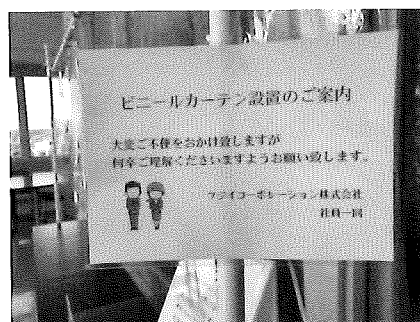
総務部エリアへの立ち入り禁止

② 受付

外部からの書類を直接受け取らないように受け取りボックスを設置しました。



受付にビニールカーテンと受け取りボックスを設置

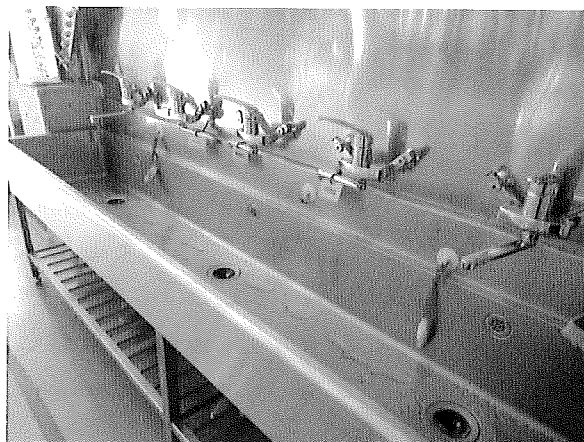


③ 手洗いのソーシャルディスタンス

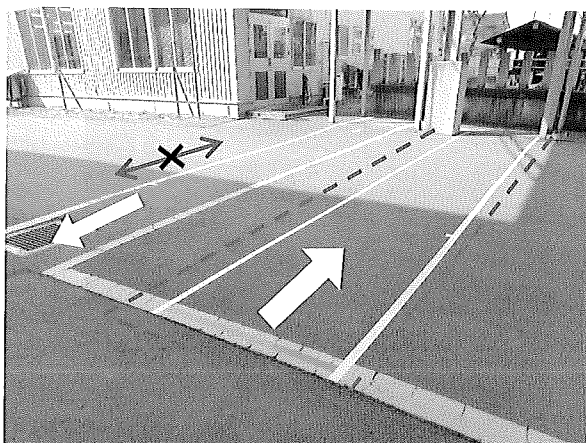
手洗い場でもソーシャルディスタンスをとれるように真ん中の蛇口3個を使用禁止にしました。



手洗い



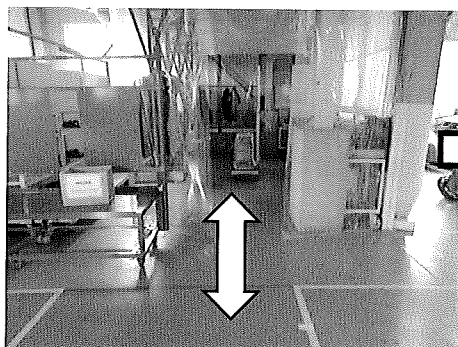
④ 動線変更



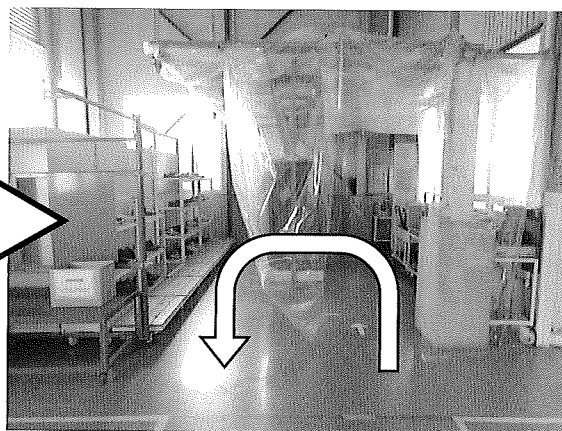
今までは両方向通路でしたが、通路を一本増やし、一方通行にしました。



タイムレコーダーまでの動線も変更しました。

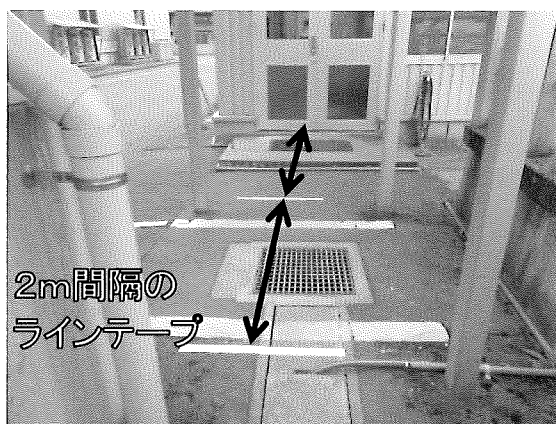


《before》



《after》

⑤ 2m間隔のラインテープ設置



事務所入り口

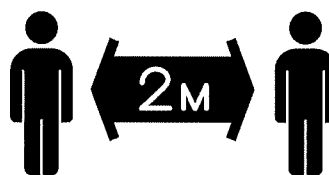


屋外通路



工場内

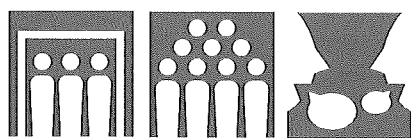
2mの間隔を常日頃意識してもらうために、いたるところにラインテープを張りました。



⑥ ベンチの設置

休憩・昼食時の密閉・密集・密接を避けるため、野外にベンチを設置しました。

天気の良い日はここで休憩したり、昼食をとったりします。



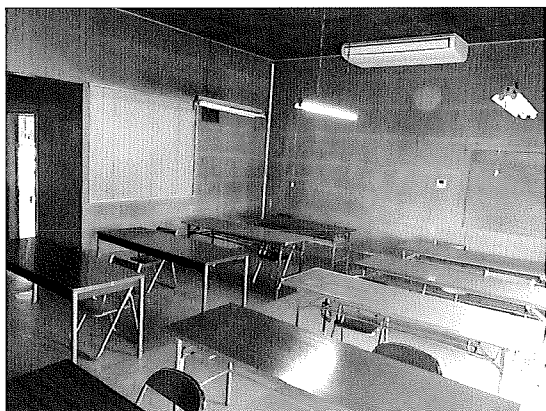
密閉回避

密集回避

密接回避

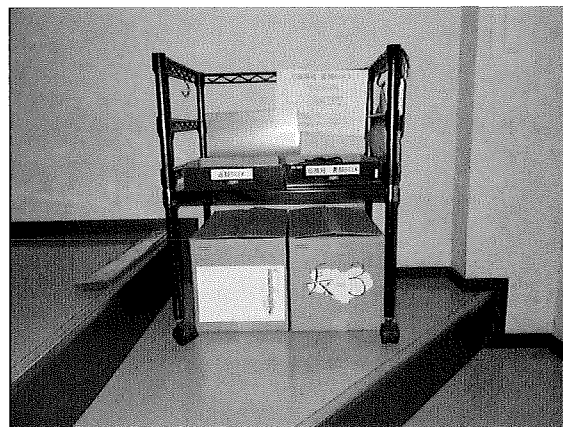


⑦ 食堂テーブルの配列変更



椅子を間引き、千鳥で設置して、密集を避けました。また、お昼の休憩時間もグループごとに時間をずらし、密集を避けています。

⑧ 書類入れの設置

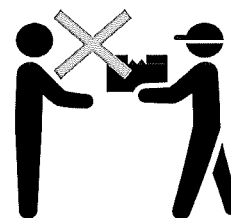


部署同士の直接接触を避けるため、書類入れを設置しました。

⑨ 宅配便受けボックスの設置



宅配便も非接触受け取りをする為、宅配便受けのボックスを作成しました。



弊社で行っている予防対策のうちのいくつかをご紹介しました。
まだまだ不十分な対策ですので、ぜひ皆様の会社で行っている対策もお聞かせください。

フジコーポレーション株式会社 〒959-1276 新潟県燕市小池 285 ハーベスタハウス
代表取締役社長 藤井 大介 TEL 0256-64-5511(代)/FAX 0256-66-1026'
除雪機・乗用草刈機・歩行草刈機・自走刈払機・高所作業機の開発・製造・販売、
ハーベスタ・管理機・トラクタ・田植機・コンバイン等の販売、KANAGATAYA、
プレス部品、プレス部品の溶接コンプ、鋼材販売、鋼材の委託加工
ホームページ <http://www.e-fujii.co.jp/> E-mail santa@e-fujii.co.jp

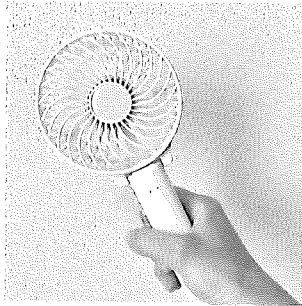
編集後記

今年の夏も暑かった！

▽ 今年の夏も暑かったですね。特に新型コロナウイルス感染防止でマスクをしての外出時は息苦しくて、マスクの中は汗でとても不快でした。

年々、夏が暑くなっているように感じているのは私だけでしょうか。これまでの国内最高気温は2018年7月23日に埼玉県熊谷市で記録された41.1℃、今年は静岡県浜松市で同じ41.1℃が記録されました。

▽ 今年は電車の中や歩きながら「携帯扇風機」を使っている人を良く見かけました。左手に扇風機、右手にスマホ、背中にリュック、顔にはマスクという若い女子が目につきました。一種の流行でしょうか。扇風機を内蔵したゴルフウェアも売られているくらいなので、そのうち「携帯クーラー」も出てくるかも、...



▽ ちなみに、気温の世界最高記録はアメリカのデスバレー（Death Valley）で1913年7月10日に記録された56.7℃とのことです。（出典：世界気象機関WMO）まさに、死の谷！

米国の気候地理学者によると、「今後数十年で、二酸化炭素排出量が大幅に削減されない限り、世界の平均気温は4~6℃上昇し、大気中のCO₂濃度は今世紀末までに2倍に増加する。こうした温室環境では、栄養不足などを考慮しない場合、植物は爆発に増える可能性がある。より暑く、CO₂濃度が高い環境にある植物は、より大きく成長し、葉の数も増える。」という。つまり、気候変動で植物が巨大化する、ということのようです。

▽ 昔、「ジャックと豆の木」というイギリス童話がありましたが、私たちの子孫も数十年後には、金の卵を産む鶏を手にすることができるのでしょうか？！まあ、その時代になれば空飛ぶクルマが走っていて、わざわざ豆の木に登らなくても済むでしょうね、きっと。

ひまわり 一日農工会報 Vol. 69 / 秋季号

令和2年(2020年)11月1日発行

発行人 / 田村敏彦

発行所 / 一般社団法人 日本農業機械工業会

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号(機械振興会館)

TEL 03-3433-0415 / FAX 03-3433-1528

URL <http://www.jfmma.or.jp>

E-mail sunflower@jfmma.or.jp